

平成 21 年 3 月期 第 2 四半期連結決算説明資料

平成 20 年 11 月 10 日
株式会社 文溪堂
(コード番号 9471)

平成 21 年 3 月期 第 2 四半期連結決算説明の資料として下記の通り提出いたします。

(注) 当期の四半期連結財務諸表は「四半期連結財務諸表規則」に基づいて、前期の中間連結財務諸表は「中間連結財務諸表規則」に基づいて作成しております。なお、当期の四半期連結財務諸表は平成 21 年 3 月期第 2 四半期決算短信 3 ページ 4. その他(2)に記載のとおり、簡便な会計処理を採用しております。

(百万円未満、小数点第 1 位未満は切捨て)

1. 第 2 四半期連結累計期間の業績 (平成 20 年 4 月 1 日～平成 20 年 9 月 30 日)

売上高	6,718 百万円	(対前年中間期増減率	1.2%)
営業利益	1,159 百万円	(20.8%)
経常利益	1,153 百万円	(21.0%)
四半期純利益	715 百万円	(48.8%)

当第 2 四半期連結累計期間の業績は、上記の通り増収、増益となりました。

(売上高は過去最高、二期連続の増収、三期ぶりの増益)

- ①増収の要因…… 習熟教材であるドリル教材や学習の定着度を確認できるプリント教材の実績が伸長し、増収となりました。
- ②増益の要因…… 売上高の増加及び、編集費用負担の軽減、販売管理費の減少により営業利益及び経常利益は増益となりました。

なお、経常利益の増加率に比較して四半期純利益の増加率が大きい要因は、前期は特別損失に役員退職慰労引当金繰入額 128 百万円を計上したことによります。

(参考) 過去 5 年間の連結業績

(単位：百万円)

	15 年 9 月中間期	16 年 9 月中間期	17 年 9 月中間期	18 年 9 月中間期	19 年 9 月中間期
売上高	6,372	6,371	6,571	6,537	6,636
営業利益	957	983	1,244	1,005	959
経常利益	933	964	1,234	992	952
中間純利益	520	558	585	580	480

2. 21年3月期の連結業績予想（平成20年4月1日～平成21年3月31日）

（単位：百万円）

	21年3月期（当期予想）		20年3月期（前期実績）	
	金額	増減率	金額	増減率
売上高	10,550	1.0%	10,441	1.3%
営業利益	500	5.1%	475	△13.6%
経常利益	490	4.2%	470	△12.4%
当期純利益	310	264.1%	85	△74.8%

当期の連結業績は、上記の通り増収、増益を予想しております。

①増収に推移すると予想される要因

当第2四半期連結累計期間の売上増により増収を見込んでおります。

②増益に推移すると予想される要因

売上高の増加及び、編集費用負担の軽減により増益を見込んでおります。

なお、経常利益の増加率に比較して当期純利益の増加率が大きい要因は、前期は特別損失に役員退職慰労引当金繰入額を計上したこと、繰延税金資産の一部の取崩しにより法人税等調整額が増加し、当期純利益が減少したことによります。

3. 21年3月期の事業の種類別セグメントの売上高予想

（単位：百万円）

区分	21年3月期（当期予想）		20年3月期（前期実績）	
	金額	構成比	金額	構成比
出版	7,030	66.6%	6,970	66.8%
出版以外	3,520	33.4%	3,471	33.2%
合計	10,550	100.0%	10,441	100.0%

4. 会計方針

出版物の改訂年度の編集費用の処理方法

教科書改訂に伴う出版物の改訂編集費用は、改訂初年度50%、2年度30%、3年度20%に按分して製品原価を計算しております。当期の小学校図書教材においては、17年度に改訂した出版物が4年度に該当するため、教科書改訂に伴う改訂編集費用の負担割合は0であります。また、教科書改訂以外の部分改訂に伴う編集費用は、発生年度の費用として製品原価を計算しております。

以上

平成 21 年 3 月期 第 2 四半期決算説明資料

平成 20 年 11 月 10 日
株式会社 文溪堂
(コード番号 9471)

平成 21 年 3 月期 第 2 四半期決算説明の資料として下記の通り提出いたします。

(注) 当期の四半期財務諸表は「四半期財務諸表等規則」に基づいて、前期の中間財務諸表は「中間財務諸表等規則」に基づいて作成しております。なお、四半期損益計算書は法定開示におけるレビュー対象ではありません。

(百万円未満、小数点第 1 位未満は切捨て)

1. 第 2 四半期累計期間の業績 (平成 20 年 4 月 1 日～平成 20 年 9 月 30 日)

売上高	5,930 百万円	(対前年中間期増減率	1.6%)
営業利益	983 百万円	(18.5%)
経常利益	974 百万円	(18.9%)
四半期純利益	612 百万円	(48.5%)

当第 2 四半期累計期間の業績は、上記の通り増収、増益となりました。

(売上高は過去最高、二期連続の増収、三期ぶりの増益)

- ①増収の要因…… 習熟教材であるドリル教材や学習の定着度を確認できるプリント教材の実績が伸長し、増収となりました。
- ②増益の要因…… 売上高の増加及び、編集費用負担の軽減、販売管理費の減少により営業利益及び経常利益は増益となりました。

なお、経常利益の増加率に比較して四半期純利益の増加率が大きい要因は、前期は特別損失に役員退職慰労引当金繰入額 111 百万円を計上したことによります。

(参考) 過去 5 年間の業績

(単位: 百万円)

	15 年 9 月中間期	16 年 9 月中間期	17 年 9 月中間期	18 年 9 月中間期	19 年 9 月中間期
売上高	5,591	5,586	5,769	5,712	5,834
営業利益	740	866	1,123	864	829
経常利益	724	853	1,115	856	819
中間純利益	403	498	517	163	412

2. 21年3月期の業績予想（平成20年4月1日～平成21年3月31日）

（単位：百万円）

	21年3月期（当期予想）		20年3月期（前期実績）	
	金額	増減率	金額	増減率
売上高	9,300	1.0%	9,201	1.4%
営業利益	400	4.1%	383	△17.6%
経常利益	390	5.2%	370	△18.0%
当期純利益	240	561.6%	36	—

当期の業績は、上記の通り増収、増益を予想しております。

①増収に推移すると予想される要因

当第2四半期累計期間の売上増により増収を見込んでおります。

②増益に推移すると予想される要因

売上高の増加及び、編集費用負担の軽減により増益を見込んでおります。

なお、経常利益の増加率に比較して当期純利益の増加率が大きい要因は、前期は特別損失に役員退職慰労引当金繰入額を計上したこと、繰延税金資産の一部の取崩しにより法人税等調整額が増加し、当期純利益が減少したことによります。

3. 21年3月期の部門別売上高予想

（単位：百万円）

区分	21年3月期（当期予想）		20年3月期（前期実績）	
	金額	構成比	金額	構成比
出版物	5,780	62.2%	5,740	62.4%
教材・教具	3,520	37.8%	3,461	37.6%
合計	9,300	100.0%	9,201	100.0%

以上